

五期俳句会 第百五十八会

今回は台風の影響で会は開催出来ませんでした。それで皆さんの句を当方へ送って貰い、アイウエオ順に記述します。

腰伸ばす度に見上げるいわし雲

萩なだるその家の人を久しく見^やず

ハローウィンに向け大南瓜の売り出さる

探し物するに都合よき夜長

身^しに入むや八十路に入りての転び癖

浅香さとみ

守り継ぐ秋の祭りや大太鼓

嬰^や児の頬つまんでみたし白桃果

土手を行く子等に鮮やか彼岸花

ちちろ鳴く友逝きてよりはや十年

小舟行く潮目くつきり秋の海

今井由紀子

雨降ればこおろぎの声ひたと止む

台風の逸れて雀の窓越しに

あばら家の前に香の良き金木犀

台風や漁船つなぎて準備せり

風吹けば犬小屋にすぐすくむ犬

久貝貞子

天高く御嶽憤怒の煙吐く

秋びえや油断ありきの風邪をひく

様々の自然災害秋憂ふ

出雲路は御縁ひま寿しき神有月

錦秋の御嶽山はまぼろしに

塩田豆子

千振の苦さ裏腹花可憐

衣被きぬかつぎ電子レンジで創りけり

菊日和旅の心をそそりけり

秋悲哀むかし登りし山噴火

十月の赭あかき満月皆既食

松浦武子

選句していないので、季重なりや表現の上手く出来てないもの
あります。ご批判などお送り下さい。

(赭)は赤土の色、べんがら色の事

